



Infor LN 電子商取引 BEMIS ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	combemisug (U8912)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
電子データ交換 (EDI).....	7
第2章 BEMIS の概要.....	9
BEMIS の概要.....	9
BEMIS 要素.....	10
ビジネス文書.....	10
EDI メッセージ.....	10
変換設定.....	11
データセグメント.....	11
データ要素.....	11
第3章 BEMIS - 設計の原則.....	13
BEMIS - 設計の原則.....	13
EDI メッセージ.....	13
変換設定.....	13
データセグメント.....	14
後方互換性 - 位置.....	14
後方互換性 - 変換設定.....	14
後方互換性 - 一般インタフェース.....	14
メッセージオーバーヘッド.....	14
データセグメント開始および終了記号.....	16
データ要素の長さ.....	16
データレコードセパレータ.....	16
空白位置.....	16
単一/複数ファイル.....	16
第4章 BEMIS - 内容.....	17
BEMIS - 内容.....	17
defaults.edi.....	17
付録A 用語集.....	19

文書情報

この文章では、EDI メッセージの生成と読取を行う内部標準としての Baan Electronic Message Interchange System (BEMIS) の目的を説明します。BEMIS の概要と設定についても詳しく説明します。

本書の対象

このユーザガイドは、次のユーザを対象としています。

- ビジネス文書/EDI メッセージを作成するユーザ
- LN で作成される BEMIS ビジネス文書/EDI メッセージによってどのようなことが可能か理解したいユーザ

本書の概要

第 1 章「概要」では、EDI のコンテキストにおける BEMIS の目的および一般的な特徴を説明します。

以降の章では、BEMIS 設計のルール、および BEMIS 標準のコンテンツについて説明します。

本書の巻末には、用語集および索引が用意されています。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- EDI メッセージに関するビジネス文書のタイプについては、EDI ビジネス文書ユーザガイド U8998 JAを参照
- ビジネス文書タイプの内容および構造については、[Infor EDI](#) の文書定義を参照

本書の使い方

本書は、オンラインヘルプトピックから作成されたものです。そのため、マニュアル内のその他のセクションへの参照は次の例のように示されています。

詳細については、「概要」を参照してください。参照先セクションに移動するには、目次を参照するか、本書の巻末にある索引を使用してください。

下線の付いた用語には、用語集の定義へのリンクが設定されています。本書をオンラインで表示した場合、下線の付いた用語をクリックすると、本書の巻末にある用語集の定義が表示されます。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

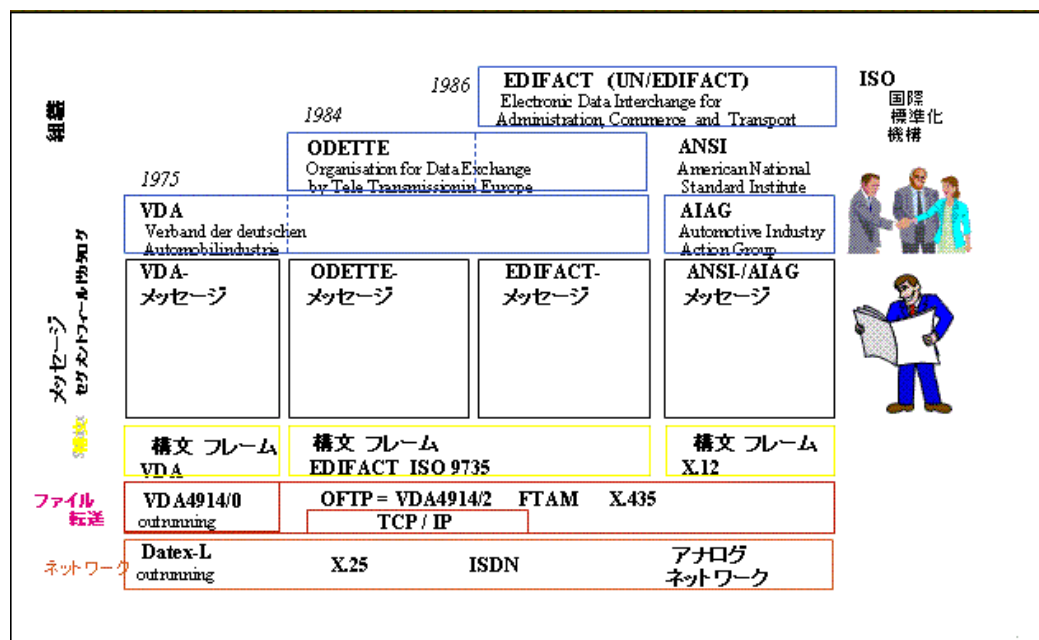
電子データ交換 (EDI)

電子データ交換 (EDI) を使用して2つのシステム間でビジネス文書が交換されます。たとえば、顧客が EDI 経由で購買オーダーを発注先に送った後、発注先がその顧客に請求書を電子的に送信して応答するとします。この場合、ビジネス文書のコピーを書面で送る必要がなくなります。

これらのビジネス文書の外部標準が各種定義されており、関連するビジネスプロセス、ビジネス文書構造および内容について規定しています。ヨーロッパでは、UN/EDIFACT 標準が使用されます。アメリカの標準は ANSI と呼ばれます。さらに、業界固有の標準も使用されます。たとえば、航空宇宙および防衛関係の SPEC2000 や AECMA、自動車業界の VDA/ODETTE などがあります。

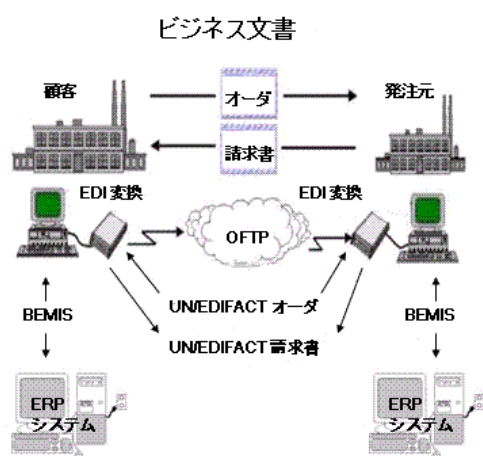
LN には、BEMIS (Baan Electronic Message Interchange System) と呼ばれる独自の内部標準があります。BEMIS 標準を使用してメッセージの生成および読み取りが行われます。取引先でサポートされている標準 EDI メッセージフォーマットを使用して、すべての外部標準を内部 BEMIS 標準へ変換、または EDI トランスレータで BEMIS から生成することができます。

次のダイアグラムは、各種標準の開発を示しています。



BEMIS の概要

電子データ交換 (EDI) では、さまざまな外部標準 (VDA、UN/EDIFACT、Odette、ANSI など) のビジネス文書を指定できます。Baan Electronic Message Interchange System (BEMIS) は、外部標準を変換した内部 LN 標準です。内部標準の外部標準への変換およびその逆は EDI トランスレータで行います。



例

次のビジネス文書/EDI メッセージはスケジュールの予測情報を含みます。

- VDA 4905
- Odette DELINS
- UN/EDIFACT DELFOR
- ANSI X12 830

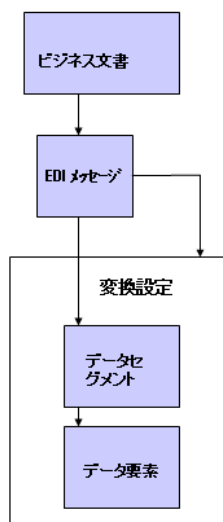
これらの文書はすべて BEMIS ビジネス文書 BEMIS MRL001 (資材発行) でサポートしています。

マルチサイト環境では、ビジネス文書を内部でも使用できます。この場合、BEMIS メッセージを外部標準に変換する必要はありません。

BEMIS 要素

BEMIS は次の要素を使用します。

- ビジネス文書
- EDI メッセージ
- 変換設定
- データセグメント
- データ要素



ビジネス文書には 1 つ以上の EDI メッセージが含まれます。EDI メッセージには、1 つまたは複数のデータ要素がある 1 つまたは複数のデータセグメントが含まれます。

ビジネス文書

ビジネス文書は取引先間のビジネスプロセスを説明します。

BEMIS は次のビジネス文書をサポートします。

- オーダ
- スケジュール
- 納入
- 輸送
- 請求
- エラー処理

EDI メッセージ

EDI メッセージは、特定のビジネス文書に関して取引先間で通信されます。

BEMIS は次の EDI メッセージをサポートします。

- オーダ (ORD)
- オーダ確認/応答 (ORS)
- オーダ変更 (ORC)
- オーダ変更確認/応答 (OCA)
- 資材発行 (MRL)
- 出荷スケジュール (SHP)
- 連続出荷スケジュール (SEQ)
- 事前出荷通知 (ASN)
- 入庫不一致通知 (RDN)
- 請求 (INV)
- 運送業者への積荷情報 (FML)
- 運送業者状況情報 (FMS)
- エラー通知 (ERN)
- メッセージ状況 (STATUS)

注意

メッセージ状況 (STATUS) は、前に生成された EDI メッセージの状況を更新するために使用することができます。このメッセージにのみ受信変換設定が存在します。

変換設定

変換設定は、特定のサービス/機能パック内の EDI メッセージのフォーマットに関連付けられています。

データセグメント

データセグメントは、EDI メッセージにある情報の中間単位です。データセグメントは、セット内の連続位置で識別される機能的に関連したデータ要素からなる所定のセットで構成されています。

データ要素

データ要素は BEMIS 標準で最小の名前のある品目です。測定子、値、または記述等のテキストを表します。

BEMIS - 設計の原則

BEMIS ビジネス文書は次の所定の規則にしたがって設計する必要があります。これらの規則にしたがっていない場合、そのビジネス文書は BEMIS 標準に適合しません。

EDI メッセージ

ビジネス文書の EDI メッセージのコードには、名称とバージョン (XXX999) が含まれます。名称は英数字、バージョンは数字になっています。どちらも 3 文字です。

例

オーダー EDI メッセージは ORD 001 と呼ばれます。

メッセージ名称	バージョン
オーダー ORD	001

以下のような場合、1 つの EDI メッセージに複数のバージョンが存在することがあります。

- 顧客の 80% が簡易版のメッセージを要求し、20% が複合版のメッセージを要求する
- 2 つの外部標準が競合する

変換設定

サービス/機能パック内の EDI メッセージを変更した場合、その機能パック用に新規の変換設定が作成されます。

変換設定のフォーマットは XXX999 です。

- 最初の 3 位置は EDI メッセージの最初の 3 位置と同じ
- 最後の 3 位置は連番

変更ごとに番号が 1 つ増えます。

例

オーダー EDI メッセージは ORD 001 と呼ばれます。

最初の変換設定は Infor LN で ORD001 と呼ばれます。

EDI メッセージ ORD001 を Infor LN SP1 で変更します。これにより新規の変換設定は ORD002 となります。

Infor LN FP2 では EDI メッセージ ORD001 を変更しません。その結果、変換設定は変更されず、ORD002 のままになります。

データセグメント

各データセグメントは EDI メッセージ内に固有コードを持ちます。データセグメントコードのフォーマットは SA99 です。最初のデータセグメントの固有コードは SA1、2 番目は SA2、10 番目は SA10 となります。

後方互換性 - 位置

ビジネス文書は複数位置にある複数のデータセグメントからなる複数の EDI メッセージで構成されています。それらの位置でデータ要素を定義することができます。位置の機能的意味を一度決定したら、変更しないでください。

たとえば、データセグメント「オーダライン」で、位置 10 には品目 (tdsls401.item) が含まれています。ビジネス文書の新バージョンでも、その品目は位置 10 にある必要があります。

重要

影響を最小限に抑えるため、LN の新バージョン/発行または機能パックを導入するときは位置を変更しないでください。位置の機能的意味を変更した場合、外部標準を内部 (BEMIS) 標準、またはその逆に変換する EDI 変換ソフトウェアも適応させる必要があります。

後方互換性 - 変換設定

特定の LN バージョン/発行内では、新しい機能パックで古い機能パックのビジネス文書を使用することができます。ビジネス文書にカスタマイズを再実行する必要がないため、このように新しい機能パックの導入による影響を少なくします。

新しい機能を使用したい場合のみ、新規ビジネス文書にカスタマイズを実行するか、または新しい機能を既存ビジネス文書に追加する必要があります。

後方互換性 - 一般インタフェース

データを再利用でき費用を削減する一般インタフェースを設定するには、外部標準に関連付けられているビジネス文書/EDI メッセージを定義する必要があります。

関連ビジネスプロセスに関するすべての該当情報を異なる外部標準がサポートするようビジネス文書/EDI メッセージに定義する必要があります。外部標準が競合する場合のみ、ビジネス文書/EDI メッセージを複数定義することが可能です。

メッセージオーバーヘッド

ビジネス文書の各 EDI メッセージには常にメッセージオーバーヘッド (data segment SA1) と呼ばれるデータセグメントが含まれます。

メッセージオーバーヘッドの情報は標準化され、LN アプリケーションにしています。次の表はメッセージオーバーヘッドの内容を示します。

SA1 メッセージオーバーヘッド

状況	必須
頻度	EDI メッセージごとに 1 回
記述	メッセージオーバーヘッドデータセグメントには送信者、メッセージタイプおよび送信時間の情報が含まれます。メッセージ参照によりこのメッセージのすべての関連データセグメントを識別します。

BEMIS フォーマット				テーブルフィールド のマッピング (送信)	テーブルフィールド のマッピング (受信)
位置	記述	キー	必須	コード	コード
1	データセグメント	-	yes	"SA1"	-
2	メッセージ参照	X	yes	ecedi701.bano	ecedi702.bano
3	送信者 ID	X	yes	ecedi020.neta	ecedi702.bpid
4	EDI メッセージ参照	X	yes	オブジェクト ID 例: tdpur400.orno	ecedi702.msno
5	EDI メッセージ	-	yes	ecedi001.code	ecedi702.mess
6	組織	-	yes	ecedi003.code	ecedi702.orga
7	オーダタイプ	-	yes	ecedi011.koor	ecedi702.koor
8	受信者 ID	-	No	ecedi028.neta	-
9	送信日	-	yes	date()	ecedi702.send
10	送信時間	-	No	time()	-

11	テストメッセージ ID	-	No	""	ecedi702.test
12	データセグメント終了記号	-	yes	"SA_END"	-

データセグメント開始および終了記号

各データセグメントはデータセグメント ID で始まり、データセグメント終了タグで終わります。したがってデータセグメントの名称とバージョンに続いて最初のデータセグメントが SA1 から始まり、SA1_END で終わります。

データ要素の長さ

BEMIS 標準では可変のフィールド長を使用します。BEMIS 標準では固定フィールド長は使用できません。

データレコードセパレータ

BEMIS 標準では「LF」制御文字でデータレコードを分離します。

空白位置

ネットワーク上で区切り文字が「;」で文字列周囲記号が“の場合、BEMIS 標準は次のような空白位置を示します。

英数字	“SA1”;…;”SA1_END”
数字	“SA1”;…;”SA1_END”

ネットワーク上で文字列周囲記号が空白の場合は、英数字でも数字でも同じになります。この場合、BEMIS 標準は上記の表の数字データ要素に示すような空白位置を示します。

単一/複数ファイル

電子商取引では、単一ファイルと複数ファイルを定義できます。単一ファイルの場合、EDI メッセージの全体が 1 つのファイルに保管されます。複数ファイルの場合、EDI メッセージの各データセグメントはそれぞれ別のファイルに保管されます。

BEMIS 標準では受信および送信 EDI メッセージに対して単一ファイルオプションのみサポートしています。

BEMIS - 内容

EDI 設定データのほとんどはユーザ定義可能ですが、LN でも、必要な EDI データをすべてデフォルトデータとして提供しています。この情報は企業基準データ会社 050 からエクスポートするか、<http://edi.infor.com> でダウンロードできます。この結果は **defaults.edi** と呼ばれる ASCII ファイルになり、EDI を使用する会社にインポートすることができます。

defaults.edi

defaults.edi と呼ばれる ASCII ファイルには次の内容が含まれます。

- BEM (BEMIS メッセージ標準) と呼ばれるデフォルト組織

■ 次の EDI メッセージ:

ORD001	オーダー (ORD)
ORS001	オーダー確認/応答 (ORS)
ORC001	オーダー変更 (ORC)
OCA001	オーダー変更確認/応答 (OCA)
MRL001	資材発行 (MRL)
SHP001	出荷スケジュール (SHP)
SEQ001	連続出荷スケジュール (SEQ)
PUS001	ピックアップシート (PUS)
ASN001	事前出荷通知 (ASN)
RDN001	入庫不一致通知 (RDN)
INV001	請求 (INV)
INV100	請求書 (ライン税金) (INV)
SBI001	自己請求請求書 (SBI)
FML001	運送業者への積荷情報 (FML)
FMS001	運送業者状況情報 (FMS)
ERN001	エラー通知 (ERN)
STATUS	メッセージ状況

- サポート EDI メッセージは上記リストと同じになります。ほとんどすべての EDI メッセージが (受信と送信) の両方向でサポートされています。

例外:

- FML001: 送信のみサポート
- FMS001: 受信のみサポート
- セッション別送信メッセージ。これらは同じ EDI メッセージですが、開始した LN セッションに関連する送信 EDI メッセージのためのものです。
- EDI メッセージ用変換設定

マルチサイト

商品フローまたは複数サイト間の情報に関係しています。

一般に、このサイトはさまざまな地域や国に位置しますが、同一の会社グループに属しています。このサイトは、LN 内で財務会社またはロジスティック会社としてモデル化されています。

EDIFACT

この頭字語は、管理、商取引および輸送用電子データ交換 (EDI) を表します。電子データ交換 (EDI) の国際的な標準化団体です。

標準 EDIFACT メッセージの独自のサブセットを使用する同様の標準化団体 (Odette など) が他にいくつかあります。

メッセージを定義するときは、慣れ親しんでいる標準命名規約と一致する命名規約を使用できます。

変換設定

メッセージデータを含む ASCII ファイルのレイアウトを定義するコード。このコードは、ERP アプリケーションテーブルと ASCII ファイルとの間のデータ要素のマッピングに関する情報を含みます。事前に定義された変換設定を使用できますが、独自の変換設定を作成することもできます。

EDI 標準

2 つの取引先間で電子的に転送されるデータ (メッセージ) の処理、手順、フォーマットを定義する国内レベルおよび国際レベルで定義されたプロトコル

ANSI

この頭字語は、米国規格協会を表します。ANSI は、米国規格と呼ばれる一貫した自主基準を策定する主要団体です。また、ANSI は非協議標準化団体の米国代表でもあります。

電子データ交換 (EDI)

標準フォーマットの標準ビジネス文書のコンピュータ間転送。内部 EDI は、同じ内部会社ネットワーク (マルチサイトまたは複数会社とも呼ばれる) 上での会社間のデータ転送を意味します。外部 EDI は、自社と外部取引先間のデータ転送を意味します。

VDA

「Verband der Automobilindustrie (自動車工業会)」の頭文字: ドイツにおける自動車業界取引の電子交換標準。この標準では、固定長のフィールド/レコードフォーマットを使用します。

索引

マルチサイト, 19
EDI, 7
EDI メッセージ, 10
 名称およびバージョン, 13
EDIFACT, 19
変換設定, 11, 19
 後方互換性, 14
 名称およびバージョン, 13
EDI 標準, 19
ANSI, 19
電子データ交換 (EDI), 7, 19
VDA, 20
BEMIS
 概要, 9
 設計の原則, 13
 内容, 17
Baan Electronic Message Interchange System,
9
ビジネス文書, 10
データセグメント, 11
 開始および終了記号, 16
 名称およびバージョン, 14
データ要素, 11
 長さ, 16
設計の原則, 13
名称およびバージョン
 EDI メッセージ, 13
 データセグメント, 14
 変換設定, 13
後方互換性
 位置, 14
 変換設定, 14
位置
 後方互換性, 14
一般インタフェース, 14
データレコード
 分離, 16
空白位置, 16
単一ファイル, 16
複数ファイル, 16
デフォルトデータ, 17
